

学校改革プロジェクト委員会（研究推進委員）通信

平成29年6月12日

6月5日（月曜日）7限に3年1組のコミュニケーション英語Ⅲの授業において、天野由佳先生の研究授業が実施されました。今回の指導のポイントは「学んだ長文を自分の言葉で表現する」（学んだことを実社会で活用する力の育成）でした。このことは下記に示されている文部科学省の論点整理でも書かれています。

今回は学校に3台ある可動式のモニターを活用した授業が行われていました。近い将来、小・中学生では全校に可動式教育用コンピュータが整備（文部科学省の案では3クラスに1台と言われています）され、高等学校入学した時点でICTを利用した授業を受けてきていることがあたり前になっている時代が到来することも予測されますので、ぜひ視聴覚機器を活用した授業について挑戦してください。



視聴覚機器を利用した授業



授業研究会の様子

※論点整理より

新しい時代に必要となる資質・能力の育成

①「何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）」

各教科等に関する個別の知識や技能など。身体的技能や芸術表現のための技能等も含む。

②「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」

主体的・協働的に問題を発見し解決していくために必要な思考力・判断力・表現力等。

③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（人間性や学びに向かう力等）」

①や②の力が働く方向性を決定付ける情意や態度等に関わるもの。以下のようなものが含まれる。

・主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する能力など、いわゆる「メタ認知」に関するもの。

・多様性を尊重する態度と互いの良さを生かして協働する力、持続可能な社会作りに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなど、人間性に関するもの。

何ができるようになるか

育成すべき資質・能力を育む観点からの
学習評価の充実

何を学ぶか

育成すべき資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

- ◆ グローバル社会において不可欠な英語の能力の強化（小学校高学年での教科化等）や、我が国の伝統的な文化に関する教育の充実
- ◆ 国家・社会の責任ある形成者として、また、自立した人間として生きる力の育成に向けた高等学校教育の改善（地理歴史科における「地理総合」「歴史総合」、公民科における「公共」の設置等、新たな共通必修科目の設置や科目構成の見直しなど抜本的な検討を行う。）等

どのように学ぶか

アクティブ・ラーニングの視点からの
不断の授業改善

- ◆ 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか
- ◆ 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか
- ◆ 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか

自分の授業で取り入れたいこと

- ・テンポ感（最終ゴールに向けての）
- ・ICTの活用（電子黒板などの視聴覚機器、ストップウォッチ）
- ・生徒間の言語活動
- ・目標の明確化
- ・4技能を総合した学習
- ・活動が多いところ（発話・ペアワーク）
- ・生徒間での確認（定着のさせ方の工夫）
- ・インプットとアウトプットのバランス
- ・タイマーを使用して、時間をはっきり区切り、かつ音で生徒も分かる。
- ・本時の目標を「今日のゴール（←イメージしやすい）は」と表現していたこと
- ・生徒が主体的になれるように心がけたい。

授業研究会で他の先生の話聞いて、なるほど！と思ったこと

- ・自分の言葉で表現することと、主体的な学習のつながり
- ・何気ない声かけ
- ・知識の定着率が課題
- ・1つの教材の切り口の多さ
- ・リテリングにつなげる工夫
- ・自分ではあたり前と思っていることも、「良さ」として発表することは大切
- ・ペアワーク中心で進めると、できている感じになりがちで、文法的なミスなどが目立たない。
- ・短い時間を設定することで生徒の集中力は増す。
- ・それぞれの立場で視点が異なり、参考になった。
- ・きちんと時間を設定し、それを明示したうえで課題に取り組ませる。

「主体的、対話的で深い学び」について知っていること

- ・生徒間の対話や気づきを大切にしたい。
- ・主権者教育というのは、社会の中で主体的な行動ができるよう、生徒を導いていくもの
- ・中学と高等学校では違う気がするので、学ばないといけないと感じている。
- ・自分で考えて表現することで知識が定着するので、主体的な学びは必要だと思う。
- ・生徒の満足感→深い知識の探求心→主体的な学び
- ・科目を好きにさせれば。自然と学ぶ姿勢が生まれるから、我々は好きになってもらう工夫をする。
- ・何がALかははっきり理解していない。
- ・聞いたことはある。できるだけ取り入れたいと考えている。
- ・対話、会話等を通じて、考えさせる場面をできるだけ作るようにしている。

感想

- ・指導案があると良い
- ・科目の特性もあるが、番所や活動は（自分とは）正反対といえるような授業をしていた。全てはうまくはいかないかもしれないにしても、進め方は参考にできる部分が多くあると感じた。
- ・コンパクトな授業研究会で良かった。このくらいの時間でもしっかりと意見を出せたのは、ベテランの先生方のおかげだと思います。